

「巨人」と呼ばないで

by JURASSIC

『巨人』のサブタイトルは周知のように、ジャン・パウルの小説の表題の引用であるが、聴衆への理解を考えての命名に過ぎず、真に必然性があるとは思えない。今日、音楽会のプログラムやレコード・ジャケットからそれが排除できぬのは、商業主義のせいである」

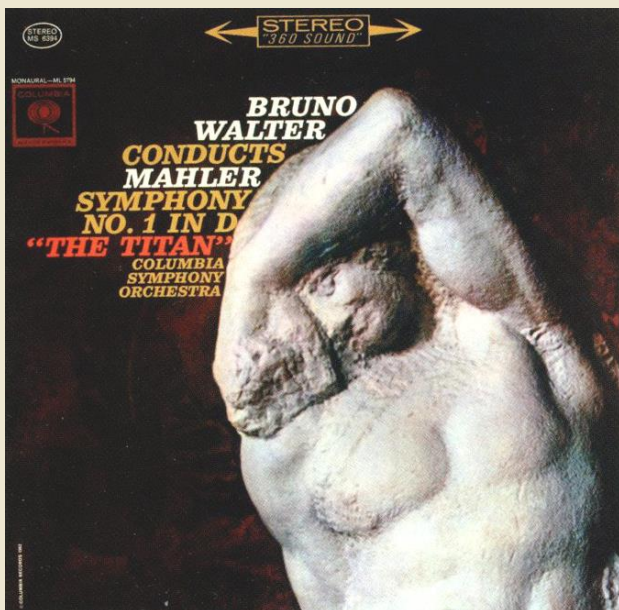
(1984年／柴田南雄)

「この曲の通称として俗に用いられる『巨人』という名称は、マーラーが構想段階で一時的に付けたものであり、かつ『交響詩』時代のものであるから、『交響曲第1番《巨人》』という言い方は、異なった時期のアイデアを混在させた不正確なものである」

(1993年／渡辺裕)

例えばベートーヴェンの5番目の交響曲には、長い間「運命」というサブタイトルが付いていました。これは日本に限ったことではなく、英語では「Fate Symphony」、ドイツ語では「Schicksalssinfonie」と表記されたCDなどが実際に存在しますから、外国でも使われていたこともあったのは事実です。しかし、この「運命」という言葉は、ベートーヴェンの伝記を書いたアントン・シントラーがその中で、この交響曲の最初のモチーフに対して作曲家自身が「運命はこのように扉を叩く」と言ったという記述が「元ネタ」なのですが、現在ではそれは完全に否定されているのです。つまり、シントラーの書いたことを真に受けてこの曲を「運命」と呼ぶのは、本当は非常に恥ずかしいことなのです。にもかかわらず、いまだに「交響曲第5番『運命』』という文字は、CDのジャケットやコンサートのチラシにはあふれかえっています。それはひとえに、たとえ間違ったことでも、そのような名前を付ければ親しみがわいてそれが購入意欲につながると信じている「商業主義」のなせる業にほかなりません。

それと全く同じことが、マーラーの「交響曲第1番」にも当てはまります。この世の中に、「マーラー作曲：交響曲第1番『巨人』』というタイトルを持つ音楽作品は存在していないのですよ。そんなはずはない、ブルーノ・ワルターが録音したレコードのこの印象的なジャケットには、まさに「巨人」の彫像とともに「THE TITAN」の文字が躍っているではないか、とおっしゃるかもしれませんが、これはこの作品が作られた経緯を検証すると分かるはずですよ。



右ページの表をご覧ください。マーラーが現在では「交響曲第1番」と呼ばれている作品を作ったのは、1889年のことでした。しかし、マーラーはその後何度もこの作品を改訂するのです。

つまり、この作品に「巨人」というサブタイトルが付いたのは最初の改訂を行った1893年の時点です。しかも、その時には「交響曲」ではなく「交響詩」とカテゴライズされていたのです（正確には「音詩」Tondichtuigですが、R.シュトラウスがこのようなドイツ語のタイトルを付けた作品は、通常「交響詩」と呼ばれています）。それを、1896年の改訂では、それまで5つあった楽章の2番目の「花の章」をカットして、この「巨人」というサブタイトルも削除、正式名称も「交響曲」としたのです。

| 稿 | ブダペスト稿 (1889) | ハンブルク稿 (1893) | ヴァイマル稿 (1894) | ベルリン稿 (1896) | 出版稿 (1899) |
|------------------|------------------|------------------------|------------------------|-------------------|------------------|
| タイトル | 二部から成る交響詩 | 「巨人」交響乐的形式による音詩 | 不明 | 大オーケストラのための交響曲二長調 | 交響曲第1番二長調 |
| 楽 章 構 成 | 第1部 (タイトルなし) | 第1部 「青春の日々より」 | 第1部 「青春の日々より」 | | |
| | 第1楽章 (タイトルなし) | 第1楽章 「春、そして終わることなく」 | 第1楽章 「春、そして終わることなく」 | 第1楽章 (タイトルなし) | 第1楽章 (タイトルなし) |
| | 第2楽章 (タイトルなし) | 第2楽章 「花の章」 | 第2楽章 「花の章」 | 削除 | 削除 |
| | 第3楽章 (タイトルなし) | 第3楽章 「順風満帆」 | 第3楽章 「順風満帆」 | 第2楽章 (タイトルなし) | 第2楽章 (タイトルなし) |
| | 第2部 (タイトルなし) | 第2部 「人間喜劇」 | 第2部 「人間喜劇」 | | |
| | 第4楽章 (タイトルなし) | 第4楽章 「難破」 | 第4楽章 「難破」 | 第3楽章 (タイトルなし) | 第3楽章 (タイトルなし) |
| | 第5楽章 (タイトルなし) | 第5楽章 「地獄から」 | 第5楽章 「地獄から」 | 第4楽章 (タイトルなし) | 第4楽章 (タイトルなし) |

この時点でマーラーは「巨人」というタイトルを自らの意志によって削除しているのですから、後世の人がそれをこの作品に付けることはそもそも作曲家の意思に背く行為なのです。さらに、その改訂は、単にタイトルを変えたり楽章を一つ減らしたりしただけのものではなく、オーケストレーションの大幅な変更や、場合によっては小節数まで変えるというものですから、1893年の『巨人』交響乐的形式による音詩と、1899年の「交響曲第1番二長調」は全く別の作品であると考えた方が現実に即しています。国際ブルックナー協会では、同じように改訂を繰り返したブルックナーの交響曲を、それぞれの稿の形態で個別に出版するというポリシーを打ち出しました。そのようなことに消極的だった国際マーラー協会も、やっとこの1893年稿（正確には、さらに改訂が加えられた1893/1894年稿）を全集版の一つとして出版し、それを使ってのコンサートやレコーディングも行われるようになりました。いや、そのような公認された楽譜ではなく、自筆譜のリプリントを使っただけの演奏ならば、すでに1960年代から始まっていたからね。この1893年稿の自筆スコアは、IMSLPでダウンロードもできますから、興味のある方は現行版と比較してみてください。

お分かりですか？繰り返しますが、「マーラー作曲：交響曲第1番『巨人』」などという作品は存在しないのです。さらに、現行の「交響曲第1番」に、「交響詩」に含まれていた「花の章」を挿入して演奏することも、なんの意味もないのです。それにしても、全集版の「ハンブルク稿」で初めて録音されたはずのCDのジャケットがまだこんなことになっているのには笑えます。インレイ(→)ではきちんと表記されているというのに。レーベルのこの腰の引けた態度こそが、「商業主義」の最たるものとは言えないでしょうか。

参考文献

柴田南雄：

グスタフ・マーラー—現代音楽への道—（岩波新書／1984年）

根岸一美・渡辺裕：

ブルックナー／マーラー事典（東京書籍／1993年）

